令和５年司法試験の採点結果を受けて

2023年11月8日

１　令和５年司法試験の採点結果

本日、法務省大臣官房人事課より、令和５年司法試験の採点結果が発表されました。結果は以下のとおりです。

受　　験　　者：3,928人
（令和４年：3,082人、令和３年：3,424人、令和２年：3,703人、令和元年：4,466人）
短答式試験合格者数：3,149人
（令和４年：2,494人、令和３年：2,672人、令和２年：2,793人、令和元年：3,287人）
合　格　者　数：1,781人
（令和４年：1,403人、令和３年：1,421人、令和２年：1,450人、令和元年：1,502人）
合　　格　　点：770点以上
（令和４年：750点以上、令和３年：755点以上、令和２年：780点以上、令和元年：810点以上）
合　　格　　率：約45.3％（受験者数ベース）
（令和４年:約45.5％、令和３年:約41.5％、令和２年:約39.2％、令和元年：約33.6％）
合　　格　　率：約56.6％（短答式試験合格者数ベース）
（令和４年:約56.2％、令和３年:約53.1％、令和２年:約51.9％、令和元年：約45.7％）

２　受験者数・合格者数について

令和元年から令和２年にかけては、コロナ禍という状況もあいまって、受験者数が 763 人減少し、その減少率も約 17％と大幅に上昇しました。令和３年の受験者数は、令和２年比で 279 人の減少、その減少率も約 7.6％にとどまりましたが、令和４年の受験者数は、令和３年比で 342 人の減少、約 10％という減少率となっており、受験者数の減少傾向には依然として歯止めがかかっていない状態でした。

このような状態の中、今年から法科大学院生の在学中受験が可能となりました。そのため、受験者数も令和４年比で 846 人増加し、約 27.4％の増加率を記録しました。令和５年の法科大学院入学者数が令和４年とほぼ同数であったことからすれば、来年の受験者数も今年と同じ水準になるものと予想されます。

合格者数については、2016 年以降、約 1,500 人ベースを維持していました。これは、2015 年６月に法曹養成制度改革推進会議が打ち出した「合格者は年間 1,500 人程度」という方針を重視していたためと考えられます。しかし、昨年の合格者数は 1,403 人であり、３年連続（令和２年～４年）で 1,500 人を割るかたちとなっていました。受験者数が著しく減少していた当時の状況下で「合格者は年間 1,500 人程度」という方針を維持するのは事実上困難であったと考えられます。

しかしながら、今年から法科大学院生の在学中受験が可能となったことから、受験者数の低い水準が一定程度改善されました。これに伴い、合格者数も 1,781 人という大幅な上昇となり、令和４年比で一気に378人も増加しました。そのため、「合格者は年間1,500人程度」という従来の方針はもはや維持されておらず、来年以降の合格者数も、おおよそ約 1,700 人台となることが見込まれます。

３　合格点について

上記のとおり、令和５年の合格点は、総合評価の総合点770点以上（令和４年：750点以上、令和３年：755点以上、令和２年：780点以上、令和元年：810点以上）となりました。

令和元年から令和２年にかけて一気に30点も下がり、令和３年も令和２年比で25点も下がりましたが、昨年は令和３年比で５点のみの減少となり、今年は一転して令和４年比で20点上昇する形となりました。

データ上では、今年の試験の難易度は、令和２年と令和３年の中間といったところだと考えられます。

４　合格者の構成

合格者の平均年齢は 26.6 歳（令和４年：28.3 歳、令和３年：28.3 歳、令和２年：28.4 歳、令和元年：28.9 歳）となりました。在学中受験者が数多く参入したことにより、合格者の平均年齢も大きく下がりました。

受験資格別でみると、まず、予備試験合格者が 353 人受験し、327 人が合格しました（合格率 92.6%　昨年比↓4.9%）。

次に、法科大学院課程修了者は、2,505 人受験し、817 人が合格しました（合格率 32.6%）。

最後に、在学中受験資格者は、1,070 人受験し、637 人が合格しました（合格率 59.5%）。

このように、法科大学院の合格率に比して、予備試験合格者の合格率の高さは圧倒的です。

予備試験合格の事実が大手法律事務所、外資系法律事務所等の就職活動において極めて大きな威力を発揮することも併せて考えると、大学在学中の皆さんに限らず、法科大学院在学中の皆さんも、予備試験合格を目指し、これを突破して司法試験に最終合格することができれば、将来の選択肢も大いに増えるのではないかと思います。

５　総評

司法試験の最終合格率は、短答式試験合格者数ベースでみたとき、令和２年から令和４年にかけて３年連続で50％台という高水準を維持しています。今年も約56.6％という最終合格率であり、高水準であるといえます。

来年度以降も受験者数に大きな変動がない限り、司法試験は、受験者数ベースでは約３人に１人が突破でき、短答式試験に合格できるだけの実力を持っていれば、そのうち約２人に１人が突破できることになります。

このように、司法試験の合格率だけに着目すれば、司法試験はもはや「難関試験」ではないと錯覚してしまいそうですが、司法試験（特に論文式試験）は紛れもなく「難関試験」です。気が遠くなるほどの学習を日々積み重ねてインプットの量・質を確保しつつ、アウトプットの訓練を何度も繰り返し、第三者による客観的なフィードバックを受けるというプロセスを経なければ、合格することは困難でしょう。たとえば、漫然とインプットだけを重ねる学習や、客観的なフィードバックを受けないアウトプットの訓練を繰り返すだけでは、合格することは難しいといえます。

そこで、合格に直結する効率的な学習が必要不可欠です。予備校を上手に活用し、効果的な受験対策を行うことで、合格できる確率を大幅に上昇させることができるでしょう。司法試験に最終合格し、皆さんの日々の努力が結ばれることを心からお祈り申し上げます。

以　上